

R 6 年度の P B L 事例について

1. 福井大学におけるPBL事例

<実施事例>

福井大学×福井市建設部建築事務所住宅政策課 『福井市空き家情報バンク魅力向上プロジェクト』

- 【指導教員】工学系部門 建築建設工学講座 菊地 吉信 准教授
【参加学生】工学研究科 安全社会基盤工学専攻 博士前期課程1、2年 計6名
工学部 建築・都市環境工学科 4年 4名
【活動期間】令和6年4月～令和7年2月
【コーディネーターマッチングの有無】あり

<協働先の課題>

- ・空き家情報バンクの利用拡大
- ・登録物件の魅力を効果的にPRするための情報発信の方法

<学生の取組内容>

- ・福井市空き家情報バンク掲載物件の中から関係者の許諾を得られた物件を対象としたサブサイト用物件紹介ページを作成
- ・対象物件の実地調査、図面作成、改修案の作成およびウェブページ掲載用の調整

<事業成果>

- ・学生の提案した物件情報ページは福井市空き家情報バンクのサブサイトとして一般公開された。
- ・若い学生の発想を活かした空き家情報バンクの改善提案により、まちづくりや地域住宅産業の振興等の活性化が期待できる。



空き家の視察風景

<協働先からの感想>

- ・学生の柔軟で新しい発想により、登録物件の魅力を効果的にPRできた。

2. 福井県立大学におけるPBL事例

<実施事例>

福井県立大学×新老人の会福井支部×越廼漁協×福井テレビ
『福井県産アカモクを活用した地域活性化』

【指導教員】看護福祉学部看護学科 村上茂 特命教授
【参加学生】生物資源学科大学院生 1名、看護学科大学院生 1名 4年生 1名
【活動期間】令和6年4月～令和7年2月
【コーディネーターマッチングの有無】なし

<協働先の課題>

- ・アカモク健康増進効果の解明
- ・福井県産アカモクの販売促進

<学生の取組内容>

- ・培養細胞や実験動物を用いたアカモクの機能性評価
- ・腸内細菌叢に着目したアカモクヒト摂取試験の実施
- ・記者発表等による成果の公表、修士論文や卒業論文での成果発表

<事業成果>

- ・新聞記事掲載、テレビ放映、YouTubeへのアップなど、成果の公表
- ・県内のみならず全国のアカモク生産あるいは販売業者からの問い合わせ
- ・アカモクに興味を持つ購入者の増加
- ・県産食材に興味を持ち、機能性に精通した学生の養成

<協働先からの感想>

- ・アカモクのヒトにおける健康増進効果が明らかとなり、商品開発や販売促進につなげることができる。



大学での記者発表



新老人の会福井支部でのヒト試験説明会

3. 福井工業大学におけるPBL事例

<実施事例>

福井工業大学 × 株式会社ホリタ × 株式会社akeru × 株式会社ぼんた × 福井市（協働先）
『顧客満足度向上のためのサービスサイエンス的手法の実践・評価尺度の設計』

- 【指導教員】 福井工業大学 経営情報学部 経営情報学科 教授 杉原 一臣 ほか 2名
- 【参加学生】 経営情報学科 4年生1名、3年生12名、2年生5名、1年生2名 合計20名
- 【活動期間】 令和6年5月～令和7年3月
- 【コーディネーターマッチングの有無】 あり

<協働先の課題>

- ・ コロナ禍後の既存ビジネスの見直しとモノやサービスの新たな価値創造

<学生の取組内容>

- ・ 学生有志グループにより、当初の目的である顧客満足度に関する評価尺度の設計を含む企業の課題解決に着手した（4年生は卒業研究として実施）。
- ・ 協働企業との連携を通じ、企業経営において従業員満足度が顧客満足度と同等に重要であるとの認識に至ったことを受け、学生と企業が「働き方」に対する共通の価値観を醸成する学科プロジェクトを正式に発足し、福井市内にある事業所の経営者や従業員へのインタビューを実施した（⇒ ESとCSを融合したハイブリッドな活動を展開）。

<事業成果>

- ・ 現状認識や意見交換を繰り返す過程は、従来の正課教育では得難い経験となった。
- ・ 支援を受けた福井市女性活躍促進課に対し、プロジェクトの成果を報告するとともに、同課が運営する「Fukurea」のサービス向上に向けた提言を行った。



経営者インタビュー
（株式会社ぼんた 齋藤敏幸氏）

<協働先からの感想>

- ・ 始動した学科プロジェクトは学生および地域の企業の双方にとって大変素晴らしい取組み

4. 仁愛大学におけるマッチング事例

< マッチング事例 >

仁愛大学×大野市地域づくり部地域文化課（マッチングした協働先） 『地域の伝承を伝えるための絵本「穴馬紙物語」の制作』

【指導教員】 人間生活学部子ども教育学科 伊東知之 教授

【参加学生】 子ども教育学科3年生 6名

【活動期間】 令和6年5月～令和7年3月

< マッチングの経緯 >

- ・ 令和6年2月：大野市地域文化課・穴馬紙大すきの会とのミーティング
- ・ 令和6年6月：穴馬紙漉き体験
- ・ 令和6年8月：穴馬紙大すきの会の学生向け説明会と楮畑、販売所見学
- ・ 令和6年8月：学生和紙漉き体験
- ・ 令和6年12月：大野市地域文化課・穴馬紙大すきの会と絵本案相談・修正

< 協働先の課題 >

- ・ 地元の特産品である穴馬紙の認知度が低い。
- ・ 地域で手漉き体験した人が少ない。

< 学生の取り組み内容 >

- ・ 穴馬紙の歴史や現状等について調査（現地視察を含む）。
- ・ 調査を基に絵本の構成を検討。
- ・ 絵本の文章、絵を作成。

< 協働先からの感想 >

- ・ 学生の視点から描かれた絵本は、親しみやすい絵本になるように感じられる。そしてその絵本を小さいときから読むことによって、地元の特産品に関心を持つようになり、伝統産業である穴馬紙についての興味が増すことを期待している。



5. 仁愛女子短期大学におけるPBL事例

<実施事例>

仁愛女子短期大学×株式会社HINONOMI、南条果樹管理組合 『観光農園における果実特性を活かした商品開発』

【指導教員】生活科学学科 小林教授
【参加学生】生活科学学科 食物栄養専攻2年生 4名
【活動期間】令和6年4月～令和7年2月
【コーディネーターマッチングの有無】なし

<協働先の課題>

- ・南越前町の観光農園ひのの実ではイチゴ11品種、ブルーベリー30品種、ブドウ40品種以上が栽培され、栽培する品種が豊富なことが特徴となっているが、多数ある品種の特徴を明らかにし可視化するとともに、その特性を活かした商品作りが課題となっている。

<学生の取組内容>

- ・イチゴ10品種の官能評価を行い、品種の特徴の違いを明確にした。中でも評価の高かった「紅ほっぺ」を用いて商品開発を行うこととした。
- ・ひのの実のいちごの色や味の濃厚さを生かしたできるだけ低糖度のいちごソースを開発した。
- ・開発したいちごソースの活用法として、事業者が栽培する上庄サトイモとの組み合わせレシピを提案した。

<事業成果>

- ・卒業論文にまとめ、卒業研究発表会で発表、協働先に成果報告のプレゼン。
- ・事業者の商品やメニューへの活用。

<協働先からの感想>

- ・いちごソースの製法は、自社のジャムの品質向上に役立ち、合わなかったと思っていたイチゴとサトイモの組み合わせが実現し、新たな視点での取り組みができた。



6. 福井高専におけるPBL事例

<実施事例>

福井工業高等専門学校×ベルテクス(株), フクビ化学工業(株), 鯖江市 ほか
『PBL型授業を通じた高専生による地域・企業の課題発見およびその解決』

【指導教員】専攻科 芳賀教授 ほか

【参加学生】専攻科1年生35名, 本科4年生201名

【活動期間】令和6年4月～令和7年2月

【コーディネーターマッチングの有無】なし

<協働先の課題（専攻科の場合）>

- ・雨水貯留槽の改善, ひび割れ補修の工法の改善, モルタルの新製品提案
- ・文教施設に関わるデザイン
- ・避難所における給水支援の提案, 道路整備の提案

<学生の取組内容（専攻科の場合）>

- ・5名ずつの7チームそれぞれで協働先の訪問調査を行い課題を発見する
- ・課題解決策を複数提案し, 協働先のアドバイスを受けて1つの案に絞る
- ・試作品を作成し, 課題解決策をプレゼンする

<事業成果（専攻科の場合）>

- ・協働先参加の中間報告会にて, 課題解決策を複数提案
- ・協働先参加の最終報告会にて, 作成した試作品を示しながらプレゼン
- ・デザイン創出コンペに応募（2チーム）



<協働先からの感想>

- ・専門知識を有していない学生のアイデアは、企業では除外される様な斬新なアイデアが創出され、学生で構成するグループ内で建設的に議論されている。
- ・いずれの発表も非常にレベルが高く、我々としても大変刺激をいただきました。